

勇払場所の繁栄と安泰を祈る

たるまえざん じんじや ちようずびち

15 樽前山神社手水鉢

所在地：苫小牧市宇高丘6番地の49



高丘の樽前山神社に奉納されている長方形の手水鉢は、台座に載せられ、正面には「奉納」の文字が、裏面には奉納者と奉納年が刻まれています。手水鉢には元治2（1865）年7月願主山田文治・支配人山田仁右衛門の名前が掘られており、この2人により奉納されたことが判ります。また、手水鉢は、山田家が地域の繁栄や安泰を祈り奉納したと考えられています。手水鉢が神社に奉納された経緯については、明治8（1875）年9月樽前村より錦多峰村の河岸覚生に神社を建立した時に移転した説、同年樽前村より苫小牧村に移転した説、錦多峰より移転した説など諸説あり正確にはわかっていません。

写真の解説

1 高丘にある樽前山神社外観 2 手水鉢

旧勇払川で見つかったアイヌの丸木舟

なるきぶね まいぼつ ふなどまり あと

16 アイヌ丸木舟埋没舟泊跡

所在地：苫小牧市宇沼ノ端旧勇払川河岸



沼ノ端にある「アイヌ丸木舟埋没舟泊跡」は、北海道指定有形文化財「アイヌ丸木舟及び推進具」が発見された場所です。勇払川旧古川地区の中にあり、勇払川の河川改修の際に、蛇行部分が三日月湖のように残った古川に囲まれた所に位置しています。

昭和41（1966）年7月に苫小牧市教育委員会により発掘調査が行われ、川の中から河川丸木舟（アイヌ語でチブ）3艘と海用丸木舟（アイヌ語でイタオマチブ）2艘の合計5艘、さらに丸木舟の中から推進具の棹4本と櫂1本が発見され、アイヌ紋様が彫刻されたものもありました。その後の調査では、約710～830年前のものであることも判明しています。

現在、発掘地点はかつての面影はありませんが「史跡 勇払川アイヌ丸木舟発見の跡」の標柱が立っています。

写真の解説

1 昭和41（1966）年に行われた丸木舟の発掘の様子 2 勇払川の右岸から見つかった丸木舟